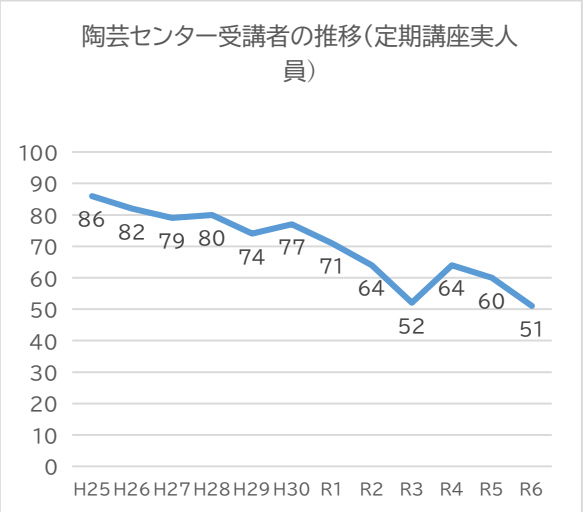
陶芸センターの今後について

滝川市陶芸センターは、市民の芸術文化振興及び高齢者の生きがい事業施設として、昭和53年6月1日に開所しました。開所にあわせ、岐阜県多治見市より指導員として大野耕太郎氏を招聘。陶芸指導にあたられるとともに、陶芸家として滝川市の文化振興に尽力されました。

開所以来46年にわたり多くの市民の皆様にご利用いただいてまいりましたが、令和6年3月末をもって大野氏が退職したことを機に、教育委員会では今後のあり方について検討をしてまいりました。

1．陶芸センターの現状

陶芸センターは、大野氏の指導のもと、初心者、上級者を対象とした定期講座や、夏休み期間の子どもたち等を対象とした特別講座を実施し、市民が陶芸に親しむ機会を提供してきました。



しかし、近年は、新規受講の申し込みが減少するとともに、高齢を理由にやめられる方も増え受講生の減少・固定化が進んでまいりました。

また、大野氏が昨年度で退職され、今年度は指導者不在のまま行政パートナーである陶工房たきかわが受講生対応を行い、11月で活動を終了、陶芸センターは12月20日より臨時休館しております。

2．陶芸センターの今後についての検討

現状、陶芸センターの利用者は限定的であり、行政が新たに指導員を採用し、陶芸を振興していくという役割は終えたと考えていますが、できる限り陶芸愛好者の活動が継続できるよう「場の確保」の視点で検討を重ねてきました。

ただし、社会教育施設全般の統廃合・集約化も進めていかなければならないなか、老朽化が進む陶芸センターに大きく予算を割ける状況にはないため、「場の確保」のあり方について模索してきました。

3．市民による運営の動き

一方、受講生は、教育委員会が陶芸センターの運営を終えることも検討していることを受

け、受講生自らが陶芸センターを運営することができないか、その可能性を探るため、６月に運営団体準備会を発足させ、議論が重ねられてきました。

11 月、準備会より、「陶芸センターを運営するために必要な受講生の確保や運営のめどが立ったことから、令和７年４月から陶芸センターで活動させてほしい」と申し出がありました。

教育委員会としましては、準備会から示された事業計画や資金計画を踏まえ、今後陶芸センターを自主的に運営する団体となることを前提に協議を重ねてまいりました。

４．今後の進め方について

令和７年度については、受講生が主体となった運営を試行的に行い、継続的な運営が可能か活動状況を検証します。その結果を受け、その後の施設のあり方について判断してまいります。

なお、運営主体として予定している団体は、指導助手として活動していた陶工房メンバーや永く陶芸活動に取り組んできた受講生により構成されており、1 月 26 日に運営団体「たきそら陶房」が設立されたところです。